

■ モモエの小さな幸せ

～ 色々な場所で春を感じる ～

春です。いよいよ農作業が始まりました。4月上旬ブドウ園のハウスのビニールかけの作業をするのですが、父の日頃の行いがいいせいか、「どんだけ、間が悪いんだず」ってほど、毎年、風か霜ジャリジャリ。しかし、なんと今年は風も霜もなく30分早く作業が終わりました。15年以上手伝っていますが初めての出来事でした。温暖化ですね。改めて気温上昇を感じました。ハウスがかかったので、隣の畑の人たちが集まり休憩します。野菜や花をもらったりしながら、農村の暮らしをしています。



みんなで一服

3月下旬に商工会議所の会で職員のみずきさんと会議所の花壇の話になりました。みずきさんから「今日、来所したお客様が小松菜あったねと言ってましたよ」とレインボーの反応をフィードバックしてもらいながら、「今まで花壇に葉っぱ植えてることなかったよね？意図があるのかな？」なんて話していました。バタバタして成長に気づかず、ハッとしたら花が咲いていました！！菜の花！！ボリューム感もあり、見事な花畑になっていました。



ん？菜の花？菜の花って茎たちでなかったのか？

調べてみたら、小松菜と茎たちは親戚でした。同じアブラナ科だそうです。小松菜はアブラナの変異種で葉っぱの形が丸く、葉を食用にするようで菜の花は食べないのだそうです。葉っぱのうちに食べられるので、小松菜の菜の花は貴重ですね！  
労研センターは4～7月が繁忙期で、気がつくとも桜が散っています。今年は菜の花を見ながら頑張りたいと思います。

5月号が出るころまで咲いていてほしいな…

■ タカテツ回顧録

— 賃上げと生産性 —

先日、久々にタカテツさんに会ってきました。相変わらず、とってもとっても元気でした。仕事の話は1年近くぶりなのに、まるで昨日も話したかのように色々聞いてきました。

最近、「モモエちゃん、他の会社で賃上げどのくらいするもんや？そのまま賃上げしてるか？」など聞かれることがあります。どのくらいと言われると何とも答えがたいのですが…。

そんな中、ふと、10年以上前にタカテツさんと話したことを思い出しました。

タカテツ「会社は、昇給をする。ある意味、昇給は会社の使命だ。

でも何もせず給料そのまま上げたら会社は潰れるからな。

仕事のやり方、生産性をきっちり見直して、組織の体力をつけた結果として賃上げしないと単純に利益圧迫するだけだ。

だから、業務改善や社員教育の組織づくりをしなければならぬんだぞで」



モモエ「それをどうやって伝えるんですか？伝わります？」

タカテツ「伝わんねぞで。その場面に遭遇しなければできないから、その時に会社毎に伝える！」

モモエ「えー！それ、難しい！！」

10年の時が過ぎ、なんとなく分かってきました。特に過渡期は賃金を先行してあげてしまいがち。本当にその仕事に払う対価なのか、払えるのかを見直さなければならない時期が来ています。よく、手取り20万くらいにするには？と聞かれるので、総支給24万円で試算してみましょう。

24万に1万円昇給（4%）して25万円にすると、残業単価2,000円。仕事の見直しをせず、残業をすると仮に1日15分×20日×2,000円＝1万円。1月に2万円（昇給＋残業）のコストが上がります。これが1日30分、1時間だったら…タカテツの「その場面」はすぐそこに来ています。